

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム 出島

目標達成計画

作成日: 平成 27年 11月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	訪問調査前に不穏症状がある入居者に対し、転倒防止として夜間ベッド柵の使用をやむを得ず使った事例があった。現在職員が見守りを行うことで柵の使用は無いが、今後も予防策を講じると共に家族の同意書作成などの取り組みに期待したい。	居室の広さや家具の位置などにより、どうしても壁際にベッドを設置する必要がある場合もあり、その点ではご家族に説明し同意を得ていたのだが、利用者の身体レベルの低下によりベッド脇の些細な隙間からはみ出しによる骨折を防ぐためにも、柵が必要な場合もある為、不穏症状のみならず柵の使用には充分配慮し今後も対応したい。	ご自身で滑落などの危険を回避できない方々には、その状態を見て職員間で十分な話し合いや意見交換をし、クッションや寝具などでポジショニングを図り、それでも危険とした時に柵の活用を考える。その結果をご家族には報告し、一時的ではあっても同意書を作成し、記録として残していく。	ヶ月
2	35	入居者の重度化に伴い、避難誘導の際は抱える等の方法が必要であることや、繁華街という立地条件から、自治会からの協力体制の更なる強化は必須であると考え。日常的な避難経路を用いた訓練の実施や夜間を想定した避難誘導の反復訓練で更なる安全対策に繋げることを今後期待する。	運営推進会議を構成している自治会の役員や消防分団、近くのGHとは年々交流を深めてきている。事前に伝えてはいても避難訓練への参加が必ずしも毎回ではなく、今後も消防分団・GHとも連携を絶やさない様にすると共に消防署からのプロの意見を参考に、重度化した利用者の対応を図っていききたい。	隣接したGSや、自治会の役員に声をかけ、避難誘導の訓練への参加を確実にしていく。また、近くのGH・消防分団とは今後も互いの訓練への参加を通して、更なる協力体制を築いていく。夜間想定や災害時など新たな課題を設けた避難誘導も実施していく。その際、重度化した利用者様を想定した訓練を重ね、安全性を高める。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。